

【瑞浪市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領や中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」には、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる児童生徒の育成が求められています。

また、瑞浪市では「第2期瑞浪市教育振興基本計画 みずなみ教育プラン」における施策として「一人一人の実態に応じた指導・援助の充実」「教育DXの推進」を掲げています。ICT環境によって実現を目指す学びの姿は次の3つです。

- ・ICTを活用して情報を収集し、必要な情報を選択し、情報を整理して考えを深めたり表現したりする姿
- ・一人一人の特性や学習進度等、必要とする支援に応じて個に応じた学習活動等に取り組んだり、他者と協働しながら学びを深めたり広げたりする姿
- ・ICTに関する諸問題の解決に主体的、自律的に向かうと共に、デジタル社会のよき担い手としての価値観をもち行動する姿

2 GIGA第1期の総括

(1) GIGA第1期の取組

令和3年2月に児童生徒と教員用の学習用端末及び、校内ネットワーク環境を整備し、これまでICTを活用した学習の充実を図ってきました。

令和3、4年度は、使ってみて端末に慣れる段階と捉え、学校での教育活動でどのように活用できるかを模索しました。ICT支援員の配置人数を増やして各校での実践をサポートしたり、教育委員会主催の教職員対象ICT研修や各校の実践交流を行ったりしました。これにより、授業における端末使用が日常的になりました。

令和5、6年度は、コロナ禍が収束して従来の教育活動が可能になり、それまでの実践で見えてきた課題を踏まえ、「従来の指導」と「ICTを活用した指導」のそれぞれのよさを生かした指導を模索しました。

(2) GIGA第1期の成果と課題

成果

- ICTを「便利な道具」として日常の学習活動に使用することが当たり前になりました。
- ICTのよさ・強み（同時に、瞬時に、個別に、幅広く、手軽に、時間や空間を超えて等）を生かした、学習活動や指導方法が、市内の小中学校に広がりました。
- 学習だけでなく、生徒指導、児童生徒の自治的な活動（児童会・生徒会活動）、個に応じた様々な支援においても、ICT活用の充実が図られました。

課題

- ◆ I C T活用の効果を検証し、従来の指導法とのベストミックスを考える必要があります。
また、協働的な学びや、思考整理、発表・表現の場面での効果的な活用も課題です。
- ◆ 日々進化する I C T技術や、デジタルシティズンシップ教育に対応するため、教職員は学び続ける必要があります。
- ◆ 端末の保守・管理や、ネットワーク環境の改善等により、安定して端末を使用できる I C T環境を整える必要があります。

3 今後の1人1台端末の利活用方策

次期端末整備・更新（R 7． 1 0月予定）により、1人1台端末と校内ネットワーク環境を引き続き維持します。

（1）1人1台端末の積極的活用

児童生徒の発達段階に応じて、I C Tを利用するための技術や知識だけでなく、デジタル社会の善き担い手、つくり手としての価値観や態度を育みます。また、計画的な教職員研修や各校の実践事例の交流、情報提供等による、I C Tを活用した指導力の向上、I C T支援員の配置などによる支援体制の充実を図ります。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

クラウドツールを用いて、児童生徒が自身の考えを整理したり、他者とやりとりする活動を通して考えを深めたりすることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。また、デジタル教材の活用やオンラインでの交流等、一人一人の特性や学習進度、必要とする支援に応じて、個に応じた学習活動の充実を図ります。

（3）学びの保障

校内・校外支援センターと教室をオンラインでつなぐことや、児童生徒と教師のやり取り、校内での情報共有等、不登校児童生徒への支援にも、個の実態に応じて1人1台端末を活用していきます。また翻訳機能や視覚資料、音声補助等により、外国籍児童生徒への支援にも活用します。